落とした一銭銅貨

新美南吉

雀が一銭銅貨をひろいました。

雀はうれしくてうれしくてたまりません。

ほかの雀をみると、

「ぼくおかねをもってるよ。」

といって、くわえていた一銭銅貨を砂の上においてみせてやりました。

さて、日ぐれになりました。すこしくらくなってきました。

「や、遊びすぎちゃった。これはたいへんだ。」

と雀は、一銭銅貨をくわえて、おおいそぎで水車小屋の方へとんでいきました。この雀は水車小屋ののき

ばにすんでいたのでありました。

まだ水車小屋につかないまえ、はたけの上をとんでいたとき、あまりあわてたので、雀（すずめ）は銅貨（どうか）を落としてしまいました。

「や、これはしまった。」

けれどあたりはもう暗くて、雀（すずめ）の目はよくみることができなくなっていたので、

「あしたの朝さがしにこよう。」

といって、そのまま水車小屋（すいしゃごや）の巣（す）にかえりました。

その夜はたいへん寒かったので、雀（すずめ）はかぜをひいてしまいました。

それもそのはず、雪がどっさりふったのでありました。

雀（すずめ）はかぜがなかなかなかなおらないので、まいにち藁（わら）の中にくるまって、落とした一銭銅貨（いっせんどうか）のことを思っていました。

やがて雀（すずめ）はよくなりました。そこで一銭銅貨（いっせんどうか）をさがしにいきました。

まだ雪ははたけの上につもっていました。

「わたしの、わたしの一銭銅貨（いっせんどうか）、この下にいるのかい。」
と、雀（すずめ）は雪の上からききました。

すると雪の下から、

「いえいえ、ここにはありません。」
とだれかがこたえました。
　雀（すずめ）はまたべつのところへいって、
「わたしの、わたしの一銭銅貨（いっせんどうか）、この下にいるのかい。」
とききました。
　するとまた雪の下から、
「いえいえ、ここにはありません。」
とこたえました。
　雀（すずめ）はあちらこちらとたずねてあるきました。
　するととうとう、
「はいはい、ここにありますよ。雪がとけたらおいで

なさい。」

とこたえました。

雀（すずめ）は雪のとけた日にまたはたけにやっていきました。銅貨（どうか）はちゃんとありました。

みるとはたけにはいっぱいふきのとうがでていました。銅貨（どうか）のあるところを雀（すずめ）におしえたのはこのふきのとうだったのでしょう。

底本：「ごんぎつね　新美南吉童話作品集1」てのり文庫、大日本図書
１９８８（昭和63）年7月8日第1刷発行
底本の親本：「校定　新美南吉全集」大日本図書
入力：めいこ
校正：もりみつじゅんじ
２００２年12月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。